

佛國婦人の夜業

佛國に於ては、近來婦人の夜業盛に行はれて將來恐るべき結果を生ぜんとする虞あり、此等の婦人は睡眠時間不足なるより、小兒の養育法不完全に陥り易し、同國にては十餘年前に、法律を以て婦人の夜間労働を禁じたるが、工業の種類に依りては例外を設けたり、然るに今は此例外頗る廣き範圍に行はるゝに至りたるなり、晝間はクレーシュ（小兒代育所）あるも、夜間は之を閉ざしめるを以て、婦人の労働中小兒は實に無惨なる状態に在るものとす、目下此労働を禁止せんがため、盛んなる運動ある由なり。

（六合雜誌）

會食中の談話

は嘸くもあれはつかみあふて居るのもある、然るに男女多くの職員は顔を捕へて居る計りで、少しも制せない對岸の火事もたゞならぬのです、局外者なる私何んとか注意を致そふかと思ふ位でありました、演説がすむ、來賓が起つ、生徒らは蜘蛛の子を散らす様に勝手に走り出すと申有様、悪口の様ですが、眞實の談、何とか此弊風を治療致す良薬もがなと、志ある者はより／＼相談も致し、青年會とか有志會とか申す組織は致して有りますが、中々むづかしいものです、かかる所に生長致す兒童の不憫さは格別なもので、上知と下愚は移らずと孔子も申されました、普通の者は是非郷里の惡習に染ります、私はつくづく申事の必要を悟りました。

（以下次號）

英國の十九世紀雜誌に於て、フレデリツキ、ハリ